

スポーティーで上質な乗り心地を生み出すシャシー設計

シャシーセッティングにおいては、ドライバーの操作に遅れの無い、心地よいハンドリングを徹底的に追求。その上で足回りには、入力分離式ダンパーマウントや、液封コンプライアンスブッシュなども投入し、スポーティーな走りとお質な乗り心地を高次元に両立させました。

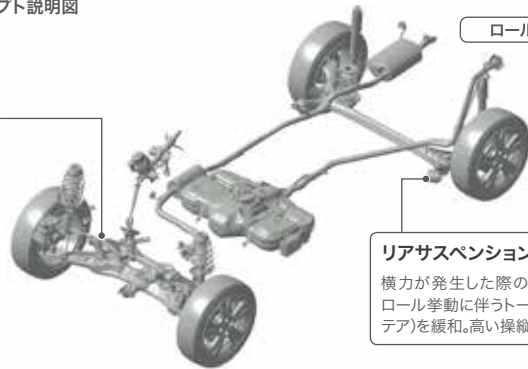
心地よいハンドリングを生み出すシャシーセッティング

ドライバーがステアリングを切ってから実際にクルマが応答するまでのプロセスをできるだけ遅れなく、リニアなものにすることを目指しました。フロントが低く、リアが高い、前下がりのロールセンター高をはじめとしたシャシーセッティングにより、応答性に優れたハンドリングフィールを実現しています。

■サスペンション設計コンセプト説明図

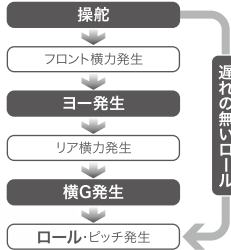
フロントサスペンション

横力が発生した際にトーアウト量が多くなる設計としました。これにより、コーナリング時に操舵角を若干戻す制御として安定性を向上させながら、ステアリングのギアレシオもクイックに設定。走行の安定感とハンドリングのレスポンスを両立しました。



リアサスペンション

横力が発生した際のトーアウト角を減らし、ロール挙動に伴うトーアウト角変化(ロールステア)を緩和。高い操縦安定感を目指しました。

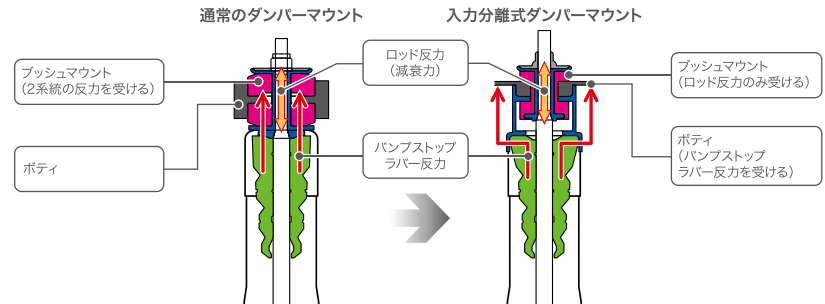


乗り心地の向上に効果を発揮する入力分離式ダンパーマウント

ボディにリアのダンパーを取り付けるマウントラバーの構造を見直した入力分離式ダンパーマウントを採用。大入力と小入力の入力系統をふたつに分け、細かい振動はロッドからマウントラバーへ伝達する一方、大きな入力は外側のダンパーブラケットからボディへ伝えるようにしました。

入力の大小を問わず、ひとつのマウントラバーで受け止める方式に対し、新構造ではマウントラバーに小さな入力に適したものを使うことができるようになり、乗り心地が向上しました。

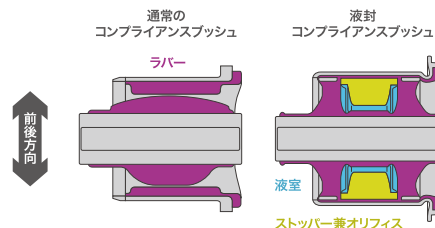
■入力分離式ダンパーマウント説明図



上質な乗り心地を実現する液封コンプライアンスブッシュの採用

セダンらしい質感の高い乗り心地を実現するために、厳しい道路環境で鍛えられた欧州シビックなどで採用される技術を投入。リアサスペンションの動きの支点となり、前後方向への動きをいなすコンプライアンスブッシュを液封タイプとすることで、「低動バネ化」「高減衰特性」を両立。段差乗り越え時などに大きな入力があっても、ショックを軽減、振動の収まりを向上させ、「ごつごつ」「びりびり」といった不快な周波数の振動を軽減しました。

■液封コンプライアンスブッシュ構造説明図



■減衰力発生メカニズム説明図

